



Monthly Pediatrics News Letter

第78号

令和5年10月

発行：産業医科大学小児科学教室

作成者：保科隆之（小児科通信係）

<はじめに>

産業医科大学小児科医局員、小児科入局を表明している初期研修医・学生の皆さん、日ごろの業務および勉強ご苦労様です。

先月号で9月になったのに暑いですねと記載しましたが、9月下旬になっても30℃を超える日が続いています。一方で、季節はずれのインフルエンザの流行は続き、新型コロナウイルス感染症の患者さんもゼロにはなりません。なかなかゆっくりできる日がなく大変だと思いますが、体調を崩さないよう涼しい場所で適度に休息することが大切です。

毎月配信しております小児科通信をお送りします。今回も大学で行われたイベントや学会参加予定などをお知らせします。小児科入局を表明していただいた学生の皆さんと当教室に興味を持っていただき見学に来られた学生さんと先生にもお送りしております。提供する情報に興味を持っていただけると嬉しいです。

通信を読んだ感想やご意見・ご要望を小児科通信制作責任者 (hoshina@med.uoeh-u.ac.jp) までお寄せください。今後の参考にさせていただきます。

<9月の医局行事>

9月2-3日 日本小児科学会小児科専門医試験（京都）

京都で開催されました。日常の業務の合間で勉強が大変だったのではないのでしょうか。受験者全員が合格していることを願っています。

合否については、必ず医局に連絡してください。

9月9日 第522回日本小児科学会福岡地方会

九州大学病院ウエストウィング棟とWebのハイブリッド開催でした。池上先生が、「眼球突出と過成長を呈した幼児期発症バセドウ病の1例」という演題を、平川先生が、「頭蓋内に多発結節病変を認めた播種性 *Bartonella henselae* 感染症の1例」という演題をそれぞれ発表しました。また、平川先生が一般演題の座長を務めました。今回の特別講演は、3月まで当教室の教授を務められた楠原浩一先生（現在は福岡市立こども病院院長）が担当され、「宿主要因と感染症」という題名で講演されました。

そして、今年度から設立された日本小児科学会福岡地方会 Young Investigator's Award という賞を村川先生が受賞しました（優秀演題



賞)。なかなか賞を受賞することは難しいですが、審査員から発表内容を認めてもらえたということはとてもうれしいことです。村川先生、おめでとうございます!!（地方会当日は体調不良により欠席されたため後日病院での写真撮影をお願いしました）

今回は12月10日に九大百年講堂とWeb配信のハイブリッドで開催されま
す。

9月11日 第16回八幡地区病院小児科合同カンファレンス

年2回（9月、3月）に八幡地区の小児科診療を行っている病院間で合同カンファレンスを行っています。今回は、「遺伝子解析によって診断が確定した症例を経験して、遺伝子検査実施のタイミングを考える」というテーマで、各施設から3つの演題を発表してもらいました。近年は様々な領域の遺伝性疾患において原因遺伝子が判明しており、その結果によって治療が異なることがあります。また、将来のことを考えて遺伝相談を受け、適切な知識を得ることも可能になりました。今回発表していただいた3演題は、小児科医にとって大変役に立つものだったと感じました。

9月28日 18時～ 産業医科大学小児科セミナー

2022年7月から2023年8月までに採択された原著論文の報告会です。全部で5篇の論文を報告していただきました。注目の受賞者は、小川先生と水城先生となりました。論文を作成するのは賞をもらうためではありませんが、こうした賞をもらうことで励みになると思います。これからも多くの論文が教室から発信されることを期待しております。

<10月の医局行事予定>

10月16日 19時～ 産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス

令和5年度産業医科大学小児科掲載症例報告論文報告会

場所 産業医科大学大学2号館2208教室

9月の原著論文報告会に続き、10月は症例報告論文報告会を開催します。

2022年8月から2023年9月までに採択された症例報告論文が対象です。論文内容を発表していただき保科（教授不在のため代行）の最も印象に残った発表をした先生と、論文が最も **impact factor** が高かった雑誌に掲載された筆頭著者の先生には、賞を差し上げます（今年は全部で6篇が対象です）。誰がその栄誉に輝くのでしょうか？

10月27日 18時～ 産業医科大学小児科セミナー

場所 産業医科大学大学2号館2階2208教室

演題名 脳性麻痺 up-to-date

演者 福田 智文、五十嵐 亮太、重田 英臣

10月のセミナーは神経グループの担当です。

上記のカンファレンスは会場と Zoom を使った Web 配信のハイブリッド開催です。遠方からも聴講できますので、興味のある方は医局まで連絡してください。視聴方法をお知らせします。

<10・11月開催予定の学会・研究会>

10月および11月上旬に医局員が参加する予定の学会・研究会をお知らせします。新型コロナウイルス流行の影響で、多くの学会・研究会が Web 開催または現地と Web のハイブリッド開催でしたが、現地開催のみとなった学会も増えてきました。

- 10月13-15日 第85回日本血液学会（東京・東京国際フォーラム + Web）
参加者：中島、白山（発表予定）
- 10月19-21日 第56回日本てんかん学会学術集会（東京・京王プラザホテル + Web）
参加者：石井
- 10月19-21日 第56回日本小児内分泌学会（埼玉・ソニックシティ大宮）
参加者：山本（発表予定）、齋藤（発表予定）、桑村（発表予定）
多久葵（発表予定）、池上
- 11月11-12日 18th Congress of the Asian Society for Pediatric Research（Web）
発表予定者：守田、白山、川村、柴原、大濱

上記に興味があり、参加を希望される方および詳細を聞きたい方は、小児科医局に電話（093-691-7254）をいただくか、メール（hoshina@med.uoeh-u.ac.jp）をお送りください。

<論文掲載情報>

当科医局員が筆頭著者もしくは共著者として名前の入っている論文の掲載情報です（8・9月掲載分）。小児科専門医取得のためには、自身が筆頭著者である論文が必要になります。当教室では、修練医にも積極的に論文作成に携わってもらい、専門医試験の受験資格をクリアできるよう指導しています。また、できるだけ英文雑誌への投稿を勧めます（PubMedに自分の名前が出てくると嬉しいですよ）。このことは、市中の総合病院ではなかなかできない利点だと思います。論文を作成することで、より理論的な考え方ができるようになります。診療の視点を広げるためにも、論文作成に積極的に取り組みましょう。

1. Nishiyama Y, Mizuki K, Hoshino A, Hirabayashi S, Magara T, Ashiarai M, Miyamoto

S, Ono R, Takahashi S, Hosoya Y, Niizato D, Yoshihara H, Nishimura A, Mitsuiki N, Kamiya T, Takasawa K, Kajiwara M, Kanegane H, Morio T, Manabe A, Isoda T, Hasegawa D, Takagi M. Hematopoietic cell transplantation for hematological malignancies in Bloom syndrome. *Pediatr Blood Cancer*. 2023, in press.

<おわりに>

小児科通信第 78 号はいかがでしたか。掲載した情報が皆さんの役に立てば嬉しいです。

医学部 6 年生の皆さんは卒業試験真ただ中ですね。4 か月後には国家試験も迫っており、気持ちが落ち着かないかもしれません。このような時に気持ちが焦ってしまうと良いことはありませんので、普段通りに落ち着いて試験に臨めば大きく失敗することはないと思います。国家試験が終われば、楽しい長期の休みが待っていますので、それを糧に日々を過ごしてください。なお、12 月 1 日に教室の忘年会、12 月中に入局歓迎会を開催しようと考えていますので、ぜひ参加を前向きに検討してください。

これまでの通信にも記載しましたが、最終的にはこの通信を読んでいる学生と初期研修医の皆さんが大学の医局に所属し、一緒に働けることが上級医の望みです。また、すでに小児科医として働いている皆さんが、日常診療や学会参加を通じてより一層レベルアップされることを願っています。

9 月号にも少し記載しましたが、1 月末（27 日の予定）も教室の同門会を開催する予定です。この小児科通信を配信している教室員の先生にはぜひ参加していただきたいイベントです。後日、出欠を伺いますので、今のところ予定が入っていない先生は、予定を入れず、出席してください。なかなか会えていない皆さんと久しぶりにお会いできることを楽しみにしています。

文責：保科 隆之（小児科通信制作係）